

平成 28 年 9 月 28 日

各 位

会 社 名 セガサミーホールディングス株式会社  
代 表 者 名 代表取締役会長兼社長兼 CEO 兼 COO  
里 見 治  
(コード番号 6460 東証第一部)  
問 合 せ 先 執行役員財務経理本部長  
大 脇 洋 一  
(電話番号 03-6215-9955)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 5 月 13 日に公表いたしました平成 29 年 3 月期第 2 四半期（累計）（平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日）の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

## 記

平成 29 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想数値の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 180,000	百万円 6,500	百万円 6,500	百万円 3,400	円銭 14.51
今回発表予想 (B)	170,000	14,000	13,500	21,000	89.59
増減額 (B-A)	△10,000	7,500	7,000	17,600	—
増減率 (%)	△5.6	115.4	107.7	517.6	—
(ご参考)前年同期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期)	154,302	5,744	5,867	964	4.11

## ■修正の理由

遊技機事業における販売スケジュール見直しに伴い、売上高は前回予想を若干下回る見込みとなりました。一方で、遊技機事業における部品のリユース等による収益性改善、エンタテインメントコンテンツ事業全般が好調に推移したこと、7 月 13 日に公表の通り、固定資産の譲渡に伴う特別利益を計上したことなどから、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前回予想を大幅に上回る見込みとなりました。

遊技機事業においては、一部タイトルの販売スケジュールを見直したことに伴い、主力タイトル『パチスロ北斗の拳 修羅の国篇』の納品スケジュールが、第 2 四半期から第 3 四半期にまたがって納品されることとなったことから、パチスロ遊技機の販売台数は約 82 千台（前回予想約 139 千台）となる見込みです。パチンコ遊技機においては、第 2 四半期に販売を行った『ぱちんこ CR 蒼天の拳 天帰』の販売が好調であったことを主因に、パチンコ遊技機の販売台数は約 76 千台（前回予想 68 千台）となる見込みです。一方で、当初予想よりも、部品のリユースを中心としたコスト改善効果が発生していることや開発費を中心とした販管費が減少していること等を要因に、収益性の改善が進んでおります。

エンタテインメントコンテンツ事業においては、デジタルゲーム分野において 4 月より PlayStation®4 で配信を開始した『ファンタシースターオンライン 2』が引き続き好調を維持しているほか、スマートデバイス向けタイトルについては、『ぷよぷよ!!クエスト』、『チェインクロニクル ～絆の新大陸～』、『オルタン

シア・サーガ・蒼の騎士団』等の既存主力タイトルを中心に堅調に推移しております。パッケージゲーム分野においては、5月発売の『Total War』シリーズの最新作『Total War: WARHAMMER』に加え、9月発売の『ペルソナ』シリーズ最新作『ペルソナ 5』等の主力タイトルの販売が堅調に推移しております。アミューズメント機器分野およびアミューズメント施設分野においては、引き続き『艦これアーケード』の稼働が好調に推移しており、レベニューシェアモデルによる収益が想定を上回って発生しているほか、アミューズメント施設の稼働回復の要因となっております。映像・玩具分野においては、劇場版『名探偵コナン 純黒の悪夢 (ナイトメア)』がシリーズとしては過去最高の興行収入を記録しております。

以上の結果、当第2四半期累計期間における連結売上高は1,700億円（前回発表予想と比較して100億円の減少）、営業利益は140億円（前回発表予想と比較して75億円の増加）、経常利益は135億円（前回発表予想と比較して70億円の増加）となる見込みです。また、前述の固定資産譲渡により、94億円の特別利益の計上を見込むことから、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては210億円（前回発表予想と比較して176億円の増加）となる見込みです。

（参考情報：セグメント別内訳）

平成29年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値の修正（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

（単位：百万円）		セグメント	前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額 (B-A)
売上高	内訳	合計	180,000	170,000	△10,000
		遊技機事業	80,000	65,000	△15,000
		エンタテインメント コンテンツ事業	93,000	98,000	5,000
		リゾート事業	7,000	7,000	—
営業利益	内訳	合計	6,500	14,000	7,500
		遊技機事業	10,500	10,800	300
		エンタテインメント コンテンツ事業	1,000	7,700	6,700
		リゾート事業	△1,500	△1,500	—
		その他/消去等	△3,500	△3,000	500

#### ■通期の見通しについて

平成29年3月期第2四半期（累計）連結業績予想において、親会社株主に帰属する純利益が通期見込みを上回っているなど、順調に推移しております。

一方で、遊技機事業においては、遊技機産業の更なる健全化を目的として、業界14団体で構成するパチンコ・パチスロ産業21世紀会が『検定機と性能が異なる可能性のあるぱちんこ遊技機』の回収・撤去を平成28年12月末までに行うことなどを宣言した『遊技業界における健全化推進に関する声明』が出されております。当グループにおきましても、それら遊技機の回収・撤去、並びに適正な遊技機への入れ替えを通じた遊技機産業の健全化に取り組むことから、当初想定していた販売スケジュールを柔軟に見直した上で、入れ替えに対応する可能性があります。また、エンタテインメントコンテンツ事業においては第3四半期以降に大型タイトルの販売を予定しております。なお、当社は平成26年5月よりグループ構造改革に着手し、既存事業のみならず先行投資を進めていた事業分野も含めた全事業の位置づけを抜本的に見直し、全事業を「成長」、「安定収益・維持」、「縮小・撤退」に分類した上で、「利益率の改善」および「資本効率の向上」を目指しております。それらグループ構造改革の検討を進めた結果、今期においては前述の固定資産の譲渡による資金の確保や海外PCゲーム開発会社の取得などを決定しており、今後もさらなる利益率改善および資本効率の向上にむけて取り組んでおります。

平成29年3月期通期連結業績予想については、第3四半期以降の製品及びサービス等の販売状況、稼働状況のほか、上記の要因による影響を慎重に見極めた上で、見通しが明らかになり次第速やかに公表いたします。

なお、配当につきましては、中間配当20円、期末配当20円、年間配当40円の予想から変更はございません。

※本資料内に記載した業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上